



FUKUSHIMA 市民インタビュー

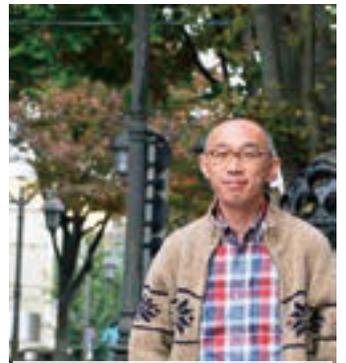
このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、12月7日(金)からパセオ通り周辺で点灯される「光のしずくイルミネーション」を運営する光のしずく事業実行委員会委員長の岩山知弘さんにインタビューしました。

すべての街路樹にイルミネーションがついている景色を見たいという思いだけで、商店街や企業の方々などへお声掛けをしてご支援いただき、点灯式を迎えられました。初めて点灯した瞬間は、自分たちも信じられない思

＼ 初めて点灯したときは？

平成元年にパセオ通りが整備され、街路樹が立ち並びました。実は、イルミネーションは、平成19年に光のしずく事業実行委員会が発足する以前から行われていたのですが、電球の劣化などで年々減り続け、最終的に7本の街路樹に少しかけ電球がついている状況でした。このままだと通りが寂しいと思い、全ての街路樹にイルミネーションをつけたらよねと商店街の仲間内で考えたのがきっかけです。

＼ きっかけは？



光のしずく事業実行委員会
委員長 岩山 知弘さん

その後、節電の風潮となり、今年の冬はできないかもと諦めかけていました。風評がはびこる中で、私たちは普段通りに

＼ 印象に残る出来事は？

7年前の3月11日です。当時、12月1日〜翌年2月14日まで点灯というコンセプトで行っていましたが、この年は、国の補助金の関係で3月14日まで延長していたのです。そこへ地震が発生しました。街中が停電し混乱の中、別の電気回路を通じて電源をとっていたため、普段と同じ午後5時に点灯したのです。このときばかりは、無駄な電気を使わないように、みんなで手分けしてイルミネーションを消しに走り回りました。

＼ 印象に残る出来事は？

いでした。イルミネーションをきっかけに、商店街の方々や他の通りの方々とコミュニケーションが取れるようになりました。イルミネーションで福島

生活しているのに「点灯できないくらい福島は元気がない」と思われてしまうのではないかと。ならば、風評を払しょくするために、明るく光る街でいつも通り生活する私たちの姿を、福島を知らない人たちに発信したいと思い、その年の冬も点灯しました。

＼ 今回で12回目。今後は？

市民の方々からイルミネーションを活用したアイデアを頂きながら、いかに新鮮さを取り入れて人に来てもらえるかをテーマに今後も進めていきたいです。毎年、ご支援を頂いている市民・企業の方々が、本当にこのイルミネーションが必要だと思ってくれることがうれしいですし、とてもありがたいです。私たちは一度灯した光は、意地でもつけ続けたいと思っています。幼い頃にイルミネーションを見た子が大人になって県外に出て、年末に福島に帰省したときに、昔と変わらず、ずっと灯されているのを見て、懐かしさと安心を与えられるようなイルミネーションでありたいですね。

＼ 今回で12回目。今後は？

生活しているのに「点灯できないくらい福島は元気がない」と思われてしまうのではないかと。ならば、風評を払しょくするために、明るく光る街でいつも通り生活する私たちの姿を、福島を知らない人たちに発信したいと思い、その年の冬も点灯しました。



We Love ♥ ふくしま!

第11回「宴会シーズンに当たって」

12月は忘年会、1月は新年会と、宴会シーズンに突入します。私も多くの会合にお招きいただき、1日に複数の宴席を渡り歩くこともまれではありません。

おいしい料理やお酒を前にすると、ついつい食べ過ぎ、飲み過ぎてしまいます。それが続くと太る、健康を害するということになるので、運動をしておいしく完食したいのですが、最近は忙しくてなかなか運動ができません。

「もったいない」「料理人さん、生産者の皆さん、ごめんなさい」と、心でお詫びしつつも、残さざるを得ません。私の代わりに完食してくれる黒子がほしいところです(笑)。

一方、料理を残すと、ごみ問題が生じてきます。福島市は、震災の影響もあって、1人当たりのごみ排出量が全国有数の多さ。減量に取り組んでもあまり成果が上がっていません。

全国的に、ごみ収集の有料化が主流になっていることもあ

り、福島市廃棄物減量等推進審議会からは、平成33年度までに2割減量できなければ有料化もやむを得ない、との答申をいただきました。

福島市では、2020年東京五輪の野球・ソフトボールの試合が実施されることにちなみ、食品ロス削減を目指して「おいしい食べきり！2020運動」を進めています。食品廃棄物などの2割強は、食べ残しなどの食品ロスなのです。「乾杯後20分は席を立たずに料理を楽しむ！」「お開き前20分は席に戻って料理を食べきる！」ようにしましょう。

でも、やっぱり健康も気になりますね。福島県は、心筋梗塞で亡くなる方の比率が全国ワースト1位、脳卒中で亡くなる方の比率もかなり多いのです。

健康とごみの減量の両立は大変ですが、運動をする、量より質重視のメニューに切り替える、など皆さんなりのやり方で、両立を図ってください。

※食品ロスとは…まだ食べられるのに廃棄される食品。



福島市長 木幡 浩